

ほっこりエピソード

保育士という仕事をする中で、日々さまざまな子どもの姿が見られますが、その中で今回は2つのほっこりとしたエピソードをご紹介します。

先日、カモミールクラスに入っていた時のこと。朝の体操をテラスで行うため、子ども達は靴下を履いていました。すると0歳児のお友だちが「履けない…！」と言うように、靴下を足に当ててアピールをしていました。保育士が手伝おうとしたその時、1歳児のお友だちが「やる？やる？（手伝ってあげようか？）」と、視線をその子に合わせ声を掛けていました。「優しい〜」とっていると、0歳児のお友だちもその言葉が分かったのか「うんうん」とうなずいていました。どうするのか？とその様子を見守っていると、1歳児のお友だちは苦戦しながらも一生懸命その子の靴下を履かせてあげ、靴下のかかとの部分が上にはなってしまいましたが、履かせてあげることが出来ました！すると「みて〜（できた〜）！」と拍手をし、とても嬉しそうな様子♪0歳児のお友だちも一緒に笑顔で拍手をしていて、心が温くなりました。

まだ生まれてから1年2年しか経っていないのに“こんなことができるんだ”と驚くと共に、日々の生活で本当にたくさんのことを学んでいるのだなと感じました。また、私たち大人は子ども達にとって“見本”として立ち振る舞い、関わりをしていかなければいけないと感じた瞬間でもありました。

2つ目はマジョラムクラスのお当番活動でのこと。お当番さんは朝、事務所に新聞を取りにくる、または、ランチルームのこぼし紙を補充するお仕事があります。ある日、新聞を取りに来たのですが、事務所の前で何やらこそこそ話をしている子ども達。「事務所に入るのに緊張しているのかな〜？」と思いながら、あえて声を掛けずに待っていました。するとお当番さん4人で“髪の毛はボサボサになっていないか・口の周りはきれいか・肌着が出ていないか・上履きが反対になっていないか”を確認し始めたのです！するとハニーさんの背中側の肌着が出ていないことに気づき、年中さんが優しく入れてくれていました。「よし！！」と言い、準備が整うと年長さんがドアを3回ノックしみんなで声を合わせて「失礼します」と入ってきました。無事新聞を受け取り「失礼しました」と事務所を出ると「出来たね〜」とみんな顔を合わせて達成感を感じている様子でした。

1連のやりとりから、年長さんは皆を引っ張り、年中さんも年下のお友だちに優しく接し、年少さん、ハニーさんも年上のお友だちから優しくしてもらうことの嬉しさ、お兄さんお姉さんと同じことが出来る嬉しさを感じているような姿があり、改めて縦割りでの関わりの方の良さを感じた一面でした。

現在お腹に新しい命を授かり、10月中旬から産休に入らせていただきます。今回のような子ども達のほっこりとした姿や日々の成長を間近で感じられないことに少し寂しさも感じますが、出産・育児という経験を今後の保育士としての仕事に活かすことが出来るように、学びに繋げていきたいと思っております。

(早紀)